



秋田県聴覚・言語障害教育研究会OB会

平成16年度OB会会報 第1号

平成16年7月発行

題字 秋田県ことばを育てる親の会

会長 辻 久 視 先生

命名者 OB会事務局長 遠藤昌夫先生

天に鳴響む大主 明けもどろの花の 咲い渡り

あれよ見れよ 清らやよ 地天鳴響む大主

《 鳴響む -とよむ - 》

《 明けもどろの花 -太陽(大主)が水平線から
昇る瞬間に天上や海原に広がる光》

～ 「おもろさうし」より ～

《挨拶》

「OB会存続への再考」

秋田県 聴覚言語障害教育研究会OB会

会長 伊 藤 薫

色鮮やかな紫陽花に目をうばわれる昨今ですが、皆さんいかがおすごしでしょうか。

顧みれば、本会も来年は10周年を迎えることから、過日の総会では今後のOB会の在り方についても話し合いました。

席上、現代社会はマニュアル重視の傾向にあるが、このほか特別支援教育には「心情を無視した取り組みは考えられない」という趣旨の発言に私は心を打たれました。一方現職教員の中には「いくら制度が変わっても、教師と子供の愛のきずなのない教育営為は成り立たないし、こうした面での豊富なキャリアをもっているのはOB会員でしょう。」との声に私たちは、これまでの姿勢を謙虚に反省し、もっと現職教員らとの交流を深める必要があるのではないかと思うのですが、皆さんはこの点どうお考えでしょうか。

いずれにいたしましても、特別支援教育の推進には有形無形を問わずこれまで以上のサポートが必要であることから、皆さんのご理解とご支援への協力をお願いします。

最後に事務担当者は、本年度南ブロックの斎藤先生(角館西小)へと変わりました。また会報は3年連続で山田先生から担当していただくことに

大変心強く思っております。

これまでご難儀をかけた日新小の進藤・伊藤両先生には、印刷業務で更にお世話になります。よろしくお願い申し上げます。

《挨拶》

OB会の皆さんへ

秋田県ことばを育てる親の会

会長 辻 久 視

秋田県に言語障害児教育のOB会が出来ているということが、全国のこの道に関わっている方達から大変羨ましがられているのです。

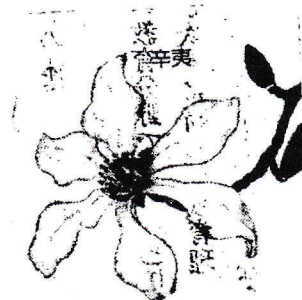
それはどうしてかと言いますと、『この教育に携わった教師が、生涯をこの教育と共に歩みながら、新しくこの教育に入って来る教師達のよきアドバイザーとして助けつつ過ごすという人生』。何と素晴らしい人生ではないでしょうか。

さて、私にとってこの教育との関わりは、ある日以来「この子達を何とかして正常な言葉を語れるように」と思い始めてより、仙台の浜崎先生を訪ね、千葉の大熊先生と話し合い、文部省と相談の上、現在の“ことばの教室”を立ちあげることが出来たので、正に私の生涯をかけた人生そのものなので、よき人との巡り会いのお陰で、OB会まで出来てしまうという事態にまで至っては、『わが人生100%完成』という気分です。

さてOB会の皆さん、この会に登録してOB会員となることは、教師達の種々のクラブ会に入会したとは根本的に違うので、この会の存在そのものが、世なおし、人間なおしの構えを基本にしていますから、会員であるというだけでは意味がなく、行動を起こすことで、会に参加することで、会そのものが大きな力を得て、世なおしの途すじが見えてくるというものです。

更にもう一つ思うことは、秋田の四者会の中で、このOB会というのが、最も中心的であり、盛り上げ役であり、まとめ役でもあります。それは何ものにもとらわれず、自由な立場からの発想で行動出来るからでしょう。

OB会のいよいよの発展を祈ります。



1 平成16年度 事業計画等 決まる
— OB会総会 終了 —

平成16年6月15日秋田市立中通小学校において、平成16年度OB会総会が開催され次の事柄が決まりましたので、ご報告致します。

(1) 平成15年度 会務報告

- ① 平成15年6月2日 秋田市立中通小学校においてOB会総会開催
- ② 6月11日上記小学校においてOB会役員会開催
- ③ 7月 OB会会報第1号発行
- ④ 8月19日～20日第31回秋田県聴覚言語障害教育研究会
- ⑤ 9月9日 OB会総会資料及び役員会資料送付
年会費納入依頼送付
- ⑥ 9月 OB会会報第2号発行
- ⑦ 11月 OB会会報第3号発行
- ⑧ 平成16年2月 OB会会報第4号発行
- ⑨ 2月7日 千秋会館でOB会役員会開催

(2) 平成15年度 OB会収支決算書

収入総額	1 3 8, 0 1 7	円
支出総額	9 3, 6 1 2	円
差引残額	4 4, 4 0 5	円

(3) 平成16年度 事業計画

- ① 県聴言研に対する協力、支援
- ② 会報発行
- ③ 秋田県ことばを育てる親の会の事業への協力、参加
- ④ 役員会開催 ⑤ その他



ハナニラ

(4) 平成16年度 OB会 予算書

収入総額	9 4, 4 0 5	円
支出総額	9 4, 4 0 5	円
差引残額	0	円

※ 詳しい内容の資料(会員名簿、役員名簿、会則等)は後程事務局から送付されます。

特殊教育一口メモ

特殊教育に携わった方であれば誰もが高橋重敏先生をご存じのことと思います。高橋先生はこの度、春の叙勲で「瑞宝双光章」を受章されました。6月20日鷹巣町で、この受章を祝う会が催されました。

この会で、高橋先生から特殊教育40年について語られました。その言葉の中から感銘を受けた「ことば」を紹介致します。

- ① 「私は体が障害者ですが、心の障害者ではない！」この世の中で一番心配なことは「心の障害者！」になることです。この世の中で一番美しいことは「砂の粒よりも小さい思いやりの心」です。

～重度障害者の女性の言葉～

- ② どんなに障害の重い子どもでも「教師(親)の言葉は通じなくても、心は通じる！」
- ③ 「子どもたちの体の傷はカットパンでも治る！」。しかし「教師の与えた心の傷は、どうやって治しますか。？」。教師は何気ない日々の言動には、細心の注意をはらいたいものです。
- ④ 「先生はみんなプロ・・・！」子どもや保護者は、教師の経験年数に関係なく「プロ・・・！」と信じています。
- ⑤ 「農業毎年一年生・・・！」。これは百歳で現在も農業現役の老人の言葉です。これはみずからの研修を怠ることのできない教育にも通じる言葉です。(特殊教育毎年一年生)
- ⑥ 教育の原点は「無償の愛を持って子に接すること」です。

《ご案内》

平成16年度 第32回秋田県聴覚・言語障害教育研究大会(一泊研)は
8月23日(月)～24日(火)の予定で横手市「ふるさと村近代美術館」「ホールサムイン横手」を会場に開催されます。
OB会員皆様のご参加をお待ちしています。



東西南北〔教室便り〕



A君の一学期

角館西小学校 通級指導教室 斎藤規子

本校の通級指導教室は、担当者2人、通級児童が現在30名です。その中で、本校の一年生になったA君は、週3回通っている元気な男の子です。

発音、聞く力、集団行動、集中力、友だち関係等、様々な課題を抱え、幼児期から1年半通級していました。

入学式、式の間じっとしていることが難しかったけれど、一年教室では担任の先生に出会い、じっと見つめてお話を聞いていました。「こんなに聞ける。」と私はうれしくなりましたが、学校生活の中での課題がはっきりしました。

通級開始。はんこや平仮名チップで遊び、ことばを作ると、集中しています。ほとんど覚えていない平仮名の学習に取り組むと、入学したことで「勉強する」という構えがこんなにできたのかと、うれしい驚きでした。覚えた文字を五十音表に印で付けるようにすると楽しんで、友達に見せ、「おれ、こんなに勉強したんだ。」と自慢する姿がありました。聞くことについても、クイズやことばのゲームではもちろん、学習の説明などでも個別の場では真剣に話を聞いています。ラ行の発音は自然な形で担当者のことばを真似するようになり、はっきり発音しようとするすると正しく言えるようになりました。

一方、学校生活ではまだまだ課題が多い現状です。運動会のお遊戯やスポーツテストの複雑な種目など、学級では理解して動くことができず、通級の個別の場で、A君にあった方法（ビデオ、カラーコーンの目印など）で支援しました。学級では指示が聞けない、集団行動がとれないことがあります。自分の物の整理整頓も課題です。思いがけないいたずらもしばしばです。

A君の一学期は、たくさんことができるようになり、たくさんの課題が見えてきた一学期でした。通級で、学級で、家庭でできることを小さな目標に分けて、連携しながら、二学期も一つ一つがんばろうと思っています。

通級指導教室の取り組みについて

秋田市立旭南小学校通級指導教室

安井 浩

1 平成15年度通級児童の実態

NO	児童名	年組	指導開始	障害名
1	T・N	3年	K小	言語発達遅滞
2	K・S	1年	K小	言語発達遅滞
3	M・H	1年	K小	言語発達遅滞(自閉的障害)
4	A・H	3年	K小	吃音
5	S・K	3年	K小	構音障害
6	S・R	2年	K小	吃音
7	S・K	2年	N小	構音障害
8	F・Y(転校)	1年	N小	構音障害
9	K・S	1年	K小	構音障害
10	S・S	1年	I小	構音障害
11	F・M	1年	N小	緘黙
12	N・R	1年	K小	言語発達遅滞(知的障害)
13	K・S	1年	T小	言語発達遅滞(知的障害)
14	S・A	1年	N小	構音障害
15	M・R	1年	U小	構音障害
16	M・Y	4年	U小	構音障害
17	K・F	1年	K小	構音障害
18	Y・T	1年	K小	構音障害
19	Y・W	1年	K小	言語発達遅滞
20	T・I	年長	幼稚園	構音障害
21	K・T	年長	幼稚園	構音障害
22	I・K	年中	幼稚園	吃音
23	O・Y	年長	幼稚園	言語発達遅滞(知的障害)

2 教育相談の実態

障害名	学年	幼児	小1	小2	小3	小4	小5	小6	合計 27名	
									校内	校外
構音障害		3	7	1		1				12
言語発達遅滞			13						4	9
吃音										
その他			2						1	1

3 指導実践

- ①対象児： 小1男子児童・構音障害（K小学校）
週1回の通級，指導時間は金曜日14時30分より1単位時間
- ②初回面接： 平成15年5月27日
保護者の話： カ行がタ行に，ガ行がダ行に聞こえる。正しく発音できるようになってほしいと思う。また，家庭でできることがあれば教えてほしい。
- 初回時の検査： 個別で検査を行った。
「絵画語い発達検査」
・生活年齢6歳8月 語い年齢6歳9月 評価点10（中）
「構音検査（改訂版）」
・K/T G/D カ行とガ行のほとんどがタ行とダ行に置換されていた。但し，クは「トゥ」に置換されていた。
「言語発達検査」
・標準値をクリア

児童の実態と保護者の意見を考慮して個別の指導計画（別紙参照）を作成した。自分でよく考える事ができ，しっかりしていて程度も軽い状態なので短期間に改善できるのではないかと予想できた。

平成15年度		個別の指導計画表		NO. 88
児童名	Y・T	生年月日	平成8年 0月 *日	
保護者	Y・Y		秋田市立K小学校 1年	
連絡先	018-***-****	在籍	担任名 K・K	
障害の状況	構音障害			
検査結果	語い年齢6歳9月 評価点10（中） カ行タ行がガ行ダ行に			
保護者の願い	正しく発音できるようになってほしいです			
生育歴	言葉でかかった医療機関はありません 言葉が遅れていると思った時期もありません			
学級での様子	学習には意欲的に取り組み，友達ともよく関わっている			
興味・関心	工作 かくれんぼ 木登り 走ること			
性格・運動面	人なつっこい性格で，友達とよく遊ぶ			
指導目標	1 「カ」「タ」行の構音の改善を図る 2 楽しくコミュニケーションを図ることができる 3 自分の発音の状態を把握することができる			
指導開始年月日：平成15年6月13日		指導終了年月日：平成15年10月31日		
週1時間通級		：金曜日6時間目		
	指導事項	指導内容		評価
1 学 期	1. 機能訓練 (口・舌)	・舌を口唇から出し，上下左右に動かす練習 ・口の体操，口形の練習		○ ○
	2. 耳の訓練	・音の聞き出し，聞き分け		◎
	3. 発音練習	・音の構音（単音や単語）		○
2	1. 機能訓練	・舌を口唇から出し，上下左右に動かす練習		◎

学 期	(口・舌)	(舌ジャンケン)	
	2. 耳の訓練	・口の体操, 口形の練習	◎
	3. 発音練習	・コ音の聞き出し, 聞き分け ・コ音の構音 (単語や文) (音読・自由会話)	◎ ◎
3 学 期	1. 機能訓練	・舌・口の体操	/
	2. 耳の訓練	・音の構音 (音読)	
	3. 発音練習	・日常自由会話	

1学期の指導開始時は少し緊張が見られた。そこで、自己紹介や旭南小学校内を探検して他の職員と挨拶をしたり、まず本校に慣れ安心して取り組めるように配慮した。最初は単音でそれから単語にして「カ」行のまねをしてみた。意識しているとはっきりであるが、普段の日常会話では気になる状態であった。おたのしみタイムを設定し、遊びの中で構音の状態をよく観察した。

舌の体操では「舌ジャンケン」のゲームを取り入れた。するとチョコキ（舌を細くして出す）が上手くできなかつた。まねっこ遊びやお菓子を使った舌のゲームを取り入れながら行ったところ、奥舌や舌の中央が盛り上がり軟口蓋につくようになり、カ音が出るようになってきた。このカ音をキーポイントとして、他の音を導く練習として動物の鳴き声をまねた遊びやカルタに取り組んでいるうちに、キ・ク・ケ音が上手く出るようになってきた。そこで、クイズ形式で「早押しピンポン」というゲーム器を活用し、聞き取りの指導も並行して行った。一つ一つの音は正しく発音できるようになってきているが、コ音・音読・話し言葉はまだ練習が必要である。

2学期に入りすぐに構音検査を試みた。1学期よりもかなり改善しており、個別の指導計画表を修正しながら指導に当たった。コ音の聞き取りやまねっこ遊びと並行して本人の好きなゲームやしりとりカルタ、風船を膨らませるのラリー等、いろいろな生活全体の場面で無意識な話し言葉の様子から、構音改善度を観察していった。

また、時間割から隣室で幼稚園児が指導されていることを活用し、その幼稚園児を入れて指導者・本人・幼稚園児と3人で指導する場面を取り入れた。すると、年上の小学生という自覚を持って「本読み」「カルタ」「オセロ」をすることにより、相手を意識した正しい発音が聞かれるようになった。そこで、双方の保護者の合意を得て、その後2時間程合同の学習時間を設定することができた。お互いに指導者以外の相手を意識する事により、予想以上に構音改善に有効であった。児童の実態や性格的なことも含め、複数での学習も大切であることを感じた。

4 児童と保護者の声

いままでありがとう
ございました。
川しり小学校でも
がんばります。

最初はとても心配で個人面談に学校に来るときも非常に緊張していましたが、職員室にいた先生がやさしく声をかけて、通級教室に案内してもらい少し安心しました。

面談後本当に改善するか疑問でしたが、少しずつ気にならなくなってきました。学校も近かったのでその点でも通いやすくて助かりました。

本人も自信をもったようでとてもうれしいです。
「1年男子児童の母親より」

5 保護者への通知

本校では今年度から保護者向けに児童の学習の様子や今後のことについて保護者向けに通知票に準ずる「お知らせ」を出しており、保護者の理解を得て連携していくのに非常に有効である。

	通級指導教室	平成 15 年 12 月
<h1>ステップ</h1>		NO .2

通級指導教室から

日頃から通級指導教室について、ご理解とご協力いただきましてありがとうございます。
1・2 学期の学習についてお知らせしたいと思います。

1 年 Y T (秋田市立K小学校)

通級時間 金曜日週 1 回 10 回 1 学期 4 回 2 学期 7 回

〈学習のとりくみ〉

「カ・タ」行がご心配ということで通級することになりました。正しい音とそうでない音を聞き分けるよい耳を育てるための聞き取りゲーム、発音器官の機能を高めるために口・舌の体操、発音器官の機能を高めるために吹いたり吸ったりする遊び等を学習しています。

〈学習のようす〉

音をしっかり出す練習で「口と舌の体操」では、口を大きく開けたり舌を細くしたり曲げたり、最初の頃にくらべるととてもスムーズにできるようになりました。また、この体操を使った「舌ジャンケン」にも意欲的に取り組みました。音の「聞き取り」では 1 から 6 までのボタンを押す機器を活用して学習しました。集中力があり、「キ」も「ケ」もとてよく聞き取ることができるようになりました。発音練習では「カケキクケココ」の文章を自分で作り、その文章を読む練習をしました。「ちつね」が「きつね」としっかりした発音で話せるようになってきました。学習への取り組みもたいへん意欲的です。

〈これから〉

50 音の発音をチェックしましたが、どの音もよく発音されていると思います。日常会話でも、気になることはなくなってきております。3 月に再度 50 音のチェックを行いたいと思います。なお、何かお気付きの点がございましたらご遠慮なくお話ください。今後とも通級指導教室をよろしく願い申し上げます。

6 成果と課題

1 学期から保護者と面談を重ねているが言葉がしっかり出てこないことで、児童本人はもちろん保護者もかなりの不安を抱いて生活してきている。この事はどの保護者との初回面談でも痛切に感じるところである。だからこそ、今まで出なかった音が出るようになった喜びは大きいものである。今後は日常会話の中で意識しないで自然に構音できるように定着化を図っていきたい。本事例は児童に、発声・発音器官・知能・行動等に特に問題がなかったため成果が早く現れたと思われる。

今後新しい特別支援教育に向けて、児童の実態把握と保護者のニーズを十分にくみとった個別の指導計画表の作成と指導過程における修正、指導内容と改善点の保護者への通知とこれからのための個人面談、この流れをしっかりと体制化していきたいと思っている。

『K君とともに』



能代立第五小学校
難聴学級担任 田代 和彦

第五小学校に今年度難聴学級が新設されました。地域の小学校へ入学させたいという、保護者の願いが実現したのです。

学校としても、いろいろな配慮をしてくださいました。児童用の机と椅子の足につけるテニスボールをすぐに取り寄せていただきました。それも、難聴学級のある棟の、2階も含めた全学級の分です。おかげで、机や椅子のガタつく音がなく、K君にとってとてもよい学習環境となりました。もちろん健聴の子どもたちにとってもです。

また校長先生からも、入学式やPTA総会での保護者へのお話や、始業式や全校集会での全校児童へのお話でもK君のことにふれていただき、全校児童・保護者への理解・啓蒙という面でも恵まれていると思います。

K君は、とても明るくて活動的です。業間タイムや昼休みには、友だちとサッカーを楽しんだり、走り回ったりして、汗びっしょりになって戻ってきます。走るのが速いので、運動会では色別対抗選手リレーの選手にも選ばれました。運動会当日は昼前から雨になり、リレーは延期となってしまいましたが、後日天気の良い日に行ったときには、K君が力一杯走るのを見ていた他学年の子どもたちから、「Kちゃん速いねー」という声が聞こえたり、走り終わったK君に「Kちゃん、速かったよ！」と声をかけてくれる子どもがいました。そばでその様子を見たり聞いたりした私もうれしくなりました。

たとえ、話しかけてくれた言葉が届かなかったとしても、接してくれた時の笑顔や雰囲気から、その気持ちはK君の心に響いたと思っています。そんな一場面からも人にも恵まれたと感じています。

こんな第五小学校で、これからK君とともにがんばっていきたいと思っています。

【編集後記】

早いものでもう7月も下旬となりました。今年は「各教室の情報等」を皆様にお届けしようと計画致しました。教室の先生方にはお忙しいところ誠に恐縮なのですがご協力を頂いているところです。ありがとうございます。今年も「OB会情報案内帳」として4回位は発行したいと思っています。何分のご協力をお願いいたします。

これから暑い夏に向かいます。皆様のご自愛をお祈りいたします。